『大無量寿経』ともいい、略して『大経』とも呼ばれる。この経は王舎城の耆闍崛山において、すぐれた比丘や菩薩たちに対して、釈尊がひときわ気高く尊い姿をあらわして説かれたものであり、諸仏がこの世にお生れになる目的は、苦悩の衆生に阿弥陀仏の本願を説いて救うためであるといわれている。

上巻には法蔵菩薩が発願し修行して阿弥陀仏となられたことが説かれる。まず「讃仏偈」には、師の世自在王仏を讃嘆しつつ、みずからの願いを述べ、ついで諸仏の国土の優劣をみてすぐれたものを選び取り、それによってたてられた四十八願が説かれるが、なかでも、すべての衆生を救おうと誓われた第十八願が根本の願である。次に四十八願の要点を重ねて誓う「重誓偈」が、さらに兆載永劫にわたる修行のさまが説かれ、この願と行が成就して阿弥陀仏となられてから十劫を経ているといい、その仏徳と浄土のありさまがあらわされている。下巻には仏願の成就していることが説かれ、衆生は阿弥陀仏の名号を聞いて信じ喜び、念仏して往生が定まると述べ、さらに浄土に往生した聖者たちの徳が広く説かれる。次に釈尊は弥勒菩薩に対して、人の世の悪を誡め、仏智を信じて浄土往生を願うべきであると勧められる。最後に無上功徳の名号を受持せよと勧め、将来すべての教えが滅び尽きても、この経だけは留めおかれ人々を救いつづけると説いて終っている。

親鸞聖人は『顕浄土真実教行証文類』に、「それ真実の教を顕さば、すなはち『大無量寿経』これなり」、また「如来の本願を説きて経の宗致とす、すなはち仏の名号をもつて経の体とするなり」と示され、如来の本願が説かれ名号のいわれがあらわされた真実の教えであるといわれている。浄土真宗の根本聖典である。

仏説無量寿経　上巻

曹魏の天竺三蔵康僧鎧訳す

【一】わたしが聞かせていただいたところは、次のようである。

あるとき、釈尊は王舎城の耆闍崛山においでになって、一万二千人のすぐれた弟子たちとご一緒であった。

みな神通力をそなえたすぐれた聖者たちで、そのおもなものの名を、了本際・正願・正語・大号・仁賢・離垢・名聞・善実・具足・牛王・優楼頻羸迦葉・伽耶迦葉・那提迦葉・摩訶迦葉・舎利弗・大目犍連・劫賓那・大住・大浄志・摩訶周那・満願子・離障・流灌・堅伏・面王・異乗・仁性・嘉楽・善来・羅云・阿難といい、教団における中心的な人たちばかりであった。

神通力　不可思議な力。これに天眼・天耳・他心・神足・宿命・漏尽の六神通がある。